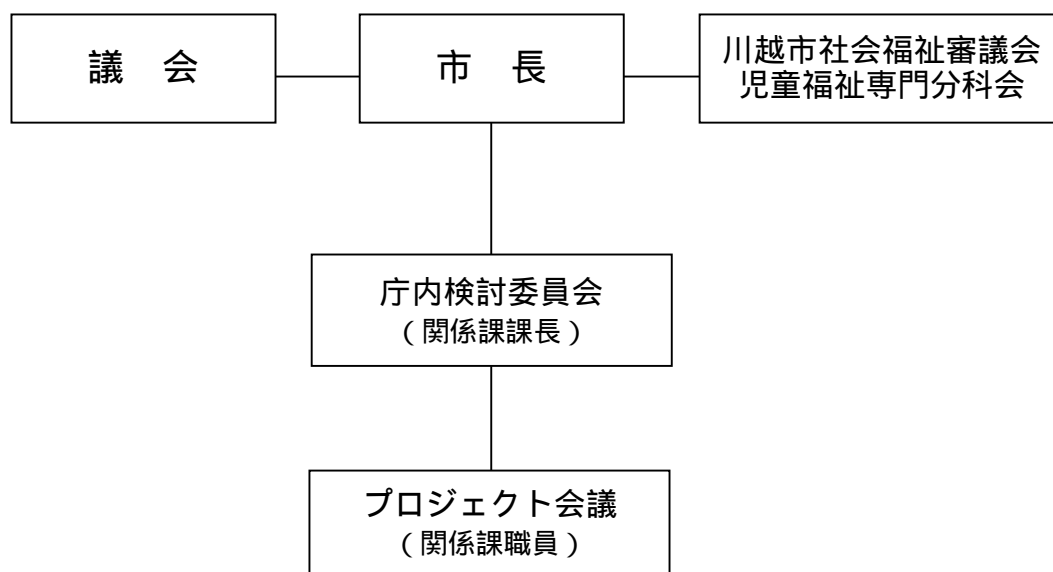


資料編

1 策定体制

本市では、平成 15 年 4 月、中核市に移行したことにより、児童福祉に関する事項を調査審議するために「川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会（以下「分科会」という。）」を設置いたしました。

この度、次世代育成支援対策行動計画を策定するに当たり、既存の分科会において行動計画の原案を審議することといたしました。（平成 16 年 4 月 8 日、市長決裁）



2 川越市社会福祉審議会児童福祉専門分科会委員名簿

	氏 名	選 出 団 体 (役 職)
1	たかはし つよし 高橋 剛	川越市市議会議員
2	かわぐち ともこ 川口 知子	〃
3	かねこ まゆみ 金子 眞弓	川越市民生委員児童委員協議会連合会主任児童委員部会長
4	なかがわ かずひろ 中川 和弘	川越私立保育園協会
5	しみず たかお 清水 隆雄	川越地区私立幼稚園協会
6	えんどう かつや 遠藤 克弥	学識経験者(東京国際大学副学長)
7	こでら ともこ 小寺 智子	〃 (弁護士)
8	ささき ふうみお 佐々木典夫	〃 ((財)船員保険会会長(元社会保険庁長官))
9	やまもと さだこ 山本 貞子	〃 (幼児教育者)
10	おだか のぶゆき 小高 旭之	川越児童相談所所長
11	さんべい やすはる 三瓶 康晴	川越市小学校校長会
12	いけだ ぶんぞう 池田 文三	川越人権擁護委員協議会川越部会会長
13	おだ ごろう 小田 伍良	川越手をつなぐ育成会会長
14	いしかわ えつこ 石川 悦子	川越市保健推進員協議会副会長
15	つちや あつこ 土屋 敦子	川越市助産師会地区長
16	くぼ きゆうこ 久保木裕子	川越子育てネットワーク副代表
17	いけだ きくよ 池田紀久代	公募委員
18	おおかわらますこ 大河原益子	〃
19	いぬたけ ようじ 犬竹 庸二	川越市医師会会長
20	おおつか よういち 大塚 陽一	川越市歯科医師会会長

会長 副会長

3 分科会の開催状況

分科会では、以下のスケジュールで行動計画の原案の審議を行いました。

第1回 平成16年5月21日開催

- ・会長・副会長の選任
- ・行動計画の策定について
- ・その他

第2回 平成16年8月2日開催

- ・基本理念について
- ・特定14事業の定量目標値について
- ・その他

第3回 平成16年10月7日開催

- ・特定14事業の目標事業量について（報告）
- ・基本理念・基本目標等について
- ・個別施策について
- ・その他

公聴会 平成16年10月24日開催

第4回 平成16年11月4日開催

- ・公聴会について（報告）
- ・個別施策・重点施策について
- ・その他

第5回 平成16年11月16日開催

- ・行動計画素案について
- ・その他

意見募集 平成16年12月6日～平成17年1月5日

第6回 平成17年1月18日開催

- ・意見募集の結果について
- ・行動計画の原案について
- ・行動計画の呼称について
- ・その他

行動計画原案を市長に提案 平成17年2月10日

4 策定の経過

市民ニーズ調査	<p>市民ニーズ調査の実施（平成 16 年 2 月 12 日～2 月 27 日）</p> <p>アンケート調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 就学前児童（回答は保護者） 配布数 2,399 回収数 1,479 有効回答数 1,469 回収率 61.2% ・ 小学生調査（回答は保護者） 配布数 2,298 回収数 1,512 有効回答数 1,499 回収率 65.2% ・ 中学生調査 配布数 200 回収数 116 有効回答数 114 回収率 57.0% <p>ヒアリング調査</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 育児サークル等調査 11 団体 <p>住民基本台帳より、該当する年齢層から無作為に調査対象を抽出し、アンケート調査票を郵送にて配布・回収しました。 ヒアリング調査は、育児サークル等が活動を行っている場所（公民館等）を中心に行いました。</p>
分科会	<p>行動計画原案の審議を行いました。（平成 16 年 5 月～平成 17 年 2 月） P 58 参照</p>
庁内検討委員会	<p>関係課長により、行動計画の検討・調整を行いました。</p> <p>第 1 回 平成 16 年 5 月 12 日開催 テーマ：行動計画の概要について / 素案の策定について / 市民ニーズ調査の結果について</p> <p>第 2 回 平成 16 年 7 月 20 日開催 テーマ：基本理念について / 特定 14 事業の定量目標値について / その他</p> <p>第 3 回 平成 16 年 9 月 14 日開催 テーマ：特定 14 事業の目標事業量についての報告 / 基本理念・基本目標等について / 個別施策について / その他</p> <p>第 4 回 平成 16 年 10 月 21 日開催 テーマ：個別施策における重点について / その他</p> <p>第 5 回 平成 17 年 1 月 11 日開催 テーマ：意見募集の結果について / 地域協議会の設置について / その他</p>

<p>プロジェクト会議</p>	<p>関係課の担当職員により、施策別に課単位の個別施策や目標事業量の検討を行いました。</p> <p>第1回 平成16年4月28日開催 テーマ：行動計画についての概要説明</p> <p>第2回 平成16年5月28日開催 テーマ：ニーズ調査の分析について / 既存・新規事業の個別調査票の作成について / その他</p> <p>第3回 平成16年6月28日開催 テーマ：基本施策についてワークショップによる検討</p> <p>第4回 平成16年7月12日開催 テーマ：基本目標・施策の方針について / 特定14事業の定量目標値案について / 基本理念について</p> <p>第5回 平成16年8月9日～11日開催 テーマ：施策グループごとに個別施策の確認を随時開催</p> <p>第6回 平成16年9月1日、3日開催 テーマ：施策グループごとに個別施策の確認を随時開催</p> <p>第7回 平成17年1月11日開催 テーマ：意見募集の結果について / 地域協議会の設置について / その他</p>
<p>関係機関連絡会</p>	<p>児童福祉に関わる関係機関との連絡会を開催し、行動計画策定の趣旨等の情報提供をするとともに、計画に盛り込むべき考え方・施策等について意見聴取を行いました。</p> <p>保育をよくする会 平成16年6月16日、6月30日、10月5日の3回開催</p> <p>学童保育 平成16年6月25日に開催</p> <p>家庭保育室 平成16年6月28日、7月28日の2回開催</p> <p>一般事業主 平成16年7月9日、10月28日、2月8日の3回開催</p> <p>法人立保育所 平成16年7月12日に開催</p> <p>認可外保育施設 平成16年7月15日に開催</p> <p>幼稚園 平成16年7月16日に開催</p>
<p>小・中学生ワークショップ</p>	<p>次世代育成支援対策推進についての概要を伝え、ワークショップ形式で行動計画策定につながる小・中学生の意見を集めました。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・小学生ワークショップ 平成16年9月13日開催 川越市立川越第一小学校6年1組33名（男子20名、女子13名） ・中学生ワークショップ 平成16年9月28日開催 川越市立川越第一中学校3年2組33名（男子16名、女子17名）

子育てアイデア会議	<p>子育てに関わる人やサークルを対象に、課題やニーズを共有し、自らが主体的に子育てを応援するための活動を始めていくためのアイデアを出し合いました。その結果平成 16 年度は、子育てフェスタの実施につながりました。</p> <p>第 1 回 平成 16 年 7 月 16 日開催 8 人参加 テーマ：自己紹介、子育ての課題ややってみたいことを出し合おう 第 2 回 平成 16 年 8 月 23 日開催 8 人参加 テーマ：みんなが始める子育て支援のアイデアを出し合おう 第 3 回 平成 16 年 9 月 9 日開催 9 人参加 テーマ：アイデアを整理し、アイデアを伝えるイベントを考えよう 第 4 回 平成 16 年 10 月 1 日開催 18 人参加 テーマ：子育てフェスタの企画を考えよう 第 5 回 平成 16 年 11 月 4 日開催 17 人参加 テーマ：グループに分かれて子育てフェスタの企画を詰めよう 第 6 回 平成 16 年 11 月 26 日開催 19 人参加 テーマ：グループに分かれて子育てフェスタの企画を詰めよう 第 7 回 平成 17 年 1 月 19 日開催 22 人参加 テーマ：子育てフェスタ実施に向けて調整しよう 川越子育てフェスタ 平成 17 年 2 月 26 日開催</p>
公聴会	<p>行動計画策定に当たり、広く市民の意見を聴取することを目的に公聴会を開催しました。 P 62 参照</p> <p>日 時 平成 16 年 10 月 24 日開催 意見発表者 7 名 出席委員 13 名 傍聴人 16 名</p>
意見募集	<p>分科会が策定した行動計画素案を公開し、広く市民の意見を募集しました。公開は市役所本庁舎 2 階こども家庭課、各出張所・公民館、児童センターこどもの城、川越駅東口児童館、保健所、総合保健センター、中央図書館、西図書館、川越駅東口図書館及び市のホームページにて行いました。 P 63～64 参照</p> <p>募集期間 平成 16 年 12 月 6 日～平成 17 年 1 月 5 日 募集対象者 ・市内に住所を有する者 ・市内の事業所又は学校等に在勤・在学する者 意見数 9 名</p>
その他の意見受付・情報提供	<p>行動計画策定については、市の広報でのお知らせやホームページによって常時情報公開しました。メールや FAX による意見は常時受け付けました。</p> <p>メールによる意見 4 通</p>
議会	<p>行動計画の策定状況については、平成 16 年 6 月、9 月、12 月の定例会で中間報告し、平成 17 年 3 月に最終報告を行いました。</p>

5 公聴会の開催結果

意見要旨（受付順）

	意見発表者	意見要旨
1	Y氏	・学童保育施策の充実について（施設整備、指導員配置等の改善）
2	K氏	・公立保育園における産休明け保育実施の重要性について
3	M氏	・行動計画について（子どもの権利） ・食育の問題について（地場産の利用） ・行動計画について（親も生き生きとしていられる計画） ・子育てしやすい環境整備について（まちづくり） ・ソフト面における環境整備について（職場における子育てへの配慮）
4	S氏	・特別に支援の必要な子どもたちへの体制作りについて （ひかり児童園 / 保育園の統合保育枠の拡大 / 地域での就学）
5	A氏	・現状の分析 ・施策・事業の検討 ・目標の設定 ・他計画との整合性 ・市民参加と情報公開 ・市町村の連携 ・一般事業主との連携 ・第三次総合計画との関連 ・議会への報告と議会の議決との関係 ・市民参加と情報公開
6	K氏	・家庭保育室の市の保育施設としての明確な位置づけについて ・家庭保育室の低年齢時保育施設として活用について ・休日、夜間、病後児保育について ・川越独自の施策作りについて
7	O氏	・子育てサークルへの補助について ・各施策について（乳幼児医療費の年齢引き上げ・保護者負担廃止 / 小・中学校の少人数学級の早期実現 / 学齢期の子どもの放課後の遊び場について）

6 意見募集の結果

次世代育成支援対策行動計画のパブリックコメントで受け付けた意見

	氏名（年齢）	意見要約	施策該当箇所
1	〇氏	1．乳幼児期の子どもについての相談窓口について 2．食物アレルギーを持つ子どもへの支援等について 3．学童保育室について 4．異世代間の交流の場について 5．バリアフリーのまちづくりについて	P. 22 1-(1)-4 P. 24 1-(1)-27 P. 34 5-(1)-1 P. 34 5-(1)-6 P. 44 7-(2)-1
2	S氏(68歳)	1．本質論の明示及び学校教育、家庭教育、社会教育の間の連携について 2．両親教育について 3．教育ユビキタス論について 4．ネットワークづくりについて	P. 37 5-(3)-18 P. 31 3-(1) P. 30 2-(3) P. 39 5-(5)-8
3	M氏	1．子育てサークルの公民館での優先予約等について 2．保育所の利用について 3．少人数学級の拡充について 4．児童館の増設について 5．保育所による開放保育の情報提供について	P. 39 5-(5)-5 P. 35 5-(2)-1 P. 28 2-(2)-9 P. 36 5-(3)-8 P. 34 5-(1)-6
4	I氏(44歳)	1．施策に関する年度別推進状況の公開について 2．評価制度の公開について	素案全般 P. 35 5-(2)-13
5	〇氏(44歳)	1．次代の親の育成について 2．ファミリー・サポート・センター事業について 3．「つどいの広場」について 4．児童館について 5．緊急一時保護事業について 6．自立支援サポーターの派遣について 7．特別支援教室の設置について 8．全校の特殊学級の設置、通常学級における障害をもった子どもたちへの対応について 9．学童保育室の指導員の加配について 10．ひかり児童園の機能の充実について	P. 17 視点(4) P. 34 5-(1)-8 P. 32 3-(2)-1 P. 36 5-(3)-8 P. 41 6-(3)-2 P. 42 6-(3)- 13、14 P. 42 6-(3)-14 P. 41 6-(3) P. 34 5-(1)-1 P. 42 6-(3)-12
6	S氏	1．自立支援サポーターについて 2．特別支援教育の充実について 3．全校の特殊学級の設置について 4．学童保育室の指導員の加配について	P. 42 6-(3)-13 P. 42 6-(3)-14 P. 41 6-(3) P. 34 5-(1)-1

7	A氏	<ul style="list-style-type: none"> 1. 現状の分析について 2. 運用管理について 3. 第三次総合計画との関係について 4. 財源・財政について 5. 行動計画書の内容について 6. 市民参加の運用管理について 	<ul style="list-style-type: none"> 第1章 第4章 第1章 第4章 素案全般 第4章
8	S氏(38歳)	<ul style="list-style-type: none"> 1. 土曜保育事業の目標年度について 2. 延長保育事業の対応について 3. 学童保育の開設時間について 	<ul style="list-style-type: none"> P. 35 5-(2)-4 P. 35 5-(2)-2 P. 34 5-(1)-1
9	I氏(28歳)	<ul style="list-style-type: none"> 1. お酒やたばこの販売について 2. 子どもたちのための複合施設について 3. 道徳の時間について 4. 公園について 5. 他の地域の伝統、歴史、昔の遊びを学べる施設について 6. 子どもたちの国際交流について 7. 博物館について 8. イベントの開催について 9. 親子で参加するイベントの開催について 10. 図書館について 11. 道路交通環境の整備について 12. 市内循環バスの増便について 13. 道の舗装について 14. 安全・安心なまちづくりについて 15. 子どもが利用しやすい店について 16. 子どもの休日について 17. 子どもたちにプレゼントやお小遣いの配布について 	<ul style="list-style-type: none"> P. 26 1-(3)-5 P. 27 2-(2) P. 27 2-(2) P. 36 5-(3) P. 38 5-(4) P. 38 5-(4) P. 38 5-(4) P. 38 5-(4) P. 38 5-(4) P. 38 5-(4) P. 44 7-(2)-1 P. 44 7-(2)-8 P. 44 7-(2)-1 P. 46 7-(5) その他 その他 その他

7 ニーズ調査結果の概要

行動計画策定のベースになっているニーズ調査の結果を、行動計画の目標・施策目標にあわせてご紹介します。

目標1：子どもと親の豊かな健康づくりの推進

1 - (1) 子どもと親の健康の確保・増進

●相談できる場を増やしてほしい

・保健センターの方が、子どもが生まれてすぐに訪問してくれて、ありがたかったです。もっと相談したり、悩みを聞いてもらえる所が増えていったら素晴らしいと思います。

●乳幼児健診の時期を増やしてほしい

・乳幼児健診が、4か月・1歳6か月まで健診がないので、その間に1回あれば良いと思います。

1 - (2) 「食育」の推進

●食事や栄養についての悩みは多い

子育てをしている中で、日ごろ悩んでいることや気になることは複数回答で、「子どもが自分の言うことをきかない」の19.8%が最も多く、次いで「食事や栄養に関すること」15.0%となっている。

●「毎朝」朝食を食べる小学生が9割以上

朝食に関しては、「毎朝、食べている」が93.4%で、残りは「週に4～6日は食べている」2.9%、「週に1～3日は食べている」2.3%、「食べていない」1.0%である。一方で、世帯構成別に見ると、「片親と子ども」で「毎朝、食べている」が77.5%で、相対的に「毎朝」規則的に食べる子どもが少ない。

1 - (3) 思春期の保健対策

●中学生の異性の悩みの傾向

中学生の悩みは、「異性との関係」について男子が5.1%、女子が12.3%と開きがあった。また学年で見ると、1年生が9.1%、2年生が10.5%、3年生が6.3%となり、3年生になると減少している。なお、最も悩みとして多かった回答は「勉強や成績のこと」65.8%である。

1 - (4) 小児医療の充実

●小児科の充実、特に夜間や休日の診療体制の充実を

・今まで一番困ったことは、平日の夜間に診て頂ける小児科が少なすぎることです。埼玉医大しかないの、そこに集中してしまい、診療を受けるまでかなりの時間がかかります。川越市休日急患診療所でも24時間体制で受け付けていただけると助かります。

・小児科、救急病院が（休日、夜間）少ない。あったとしても遠くて車がないと行けないし不便です。

・現在住んでいる周囲（芳野地区）には、小児科、外科が少なく、待ち時間が長く、具合が悪くてかかるのに逆に病状が悪くなってしまう。個人病院が減ってきており、かかりつけの先生がおらず日々不安に思っている。市の方で医療施設に力を入れてほしい。

<p>●子育てにお金がかかりすぎる</p> <ul style="list-style-type: none"> ・子ども1人育てるのにお金がかかり、将来的に学費や生活費の不安があります。 ・川越市の施策はお年寄にはとてもやさしくなっている反面、子供あるいは子供をもつ家庭への支援が足りない。
<p>●児童手当の充実</p> <p>児童手当の対象年齢の引き上げ、年収による制限の緩和、児童手当の増額（特に2人目から）などが書かれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童手当や医療費負担による優遇措置よりも、教育費全体の金銭的自己負担が大きい。子を2人、3人欲しいと思っている人は多いが、現実的には1人でいっぱいです。
<p>●児童の医療費負担の軽減</p> <p>子どもに対する医療費助成の拡大、出産補助額の増額などの要望が書かれている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・出産の補助が30万円ありますが、補助額の増額、検診費用の一部負担を期待します。 ・子どもの医療費を小学生までは無料にしてほしい。 ・乳児だけでなく、小学生位まで医療制度を無料にしたり、保育料を安くしたりしてほしい。 ・児童手当の年齢が引き上げられたのは良い事だが、社会保障・年金等の先送り政策によって安心できる生活の保障がない限り少子化になっていくと思う。
<p>●予防接種を無料にして欲しい</p> <ul style="list-style-type: none"> ・現在、有料で行われているインフルエンザ等の予防接種を無料にしてほしい。 ・健康診断や予防接種を受ける会場がかなり遠く、車がない人には厳しい。生まれる月に関係なく、近所で受けられるようにしてほしい。 ・ポリオやツベルクリンなど予防接種を受ける日数を増やしてほしい。

目標2：心身の健やかな成長に資する教育環境づくりの推進

2 - (1) 次代の親の育成

<p>●中学生の考える将来、結婚して子供がいて作りたい家庭は～「両親とも働き子育てする家庭」が3分の2近い</p> <p>将来、結婚して子供がいるとしたら、作りたい家庭は、「子どもが小さいときだけ女の人が家において、子どもが大きくなったら、男の人も女の人も働いて、いっしょに家のことや子育てする家庭」の35.1%が最も多く、次いで「男の人も女の人も働いて、いっしょに家のことや子育てする家庭」30.7%、「男の人が働いて、女性が家のことや子育てをする家庭」21.9%などとなっている。子どもが小さいときは別として、男の人も女の人も働いて「いっしょに家のことや子育てする家庭」が65.8%になる。</p> <p>男女別では、男子は「子どもが大きくなったら、男の人も女の人も働いて、いっしょに家のことや子育てする家庭」33.3%、「男の人も女の人も働いて、いっしょに家のことや子育てする家庭」22.8%、女子はそれぞれ36.8%、38.6%となっており、女子の方が子どもが小さいときも働きたいと思っている。</p>
<p>●中学生が考える20年後の自分の状態は～男子は「分からない」、女子は「結婚して子供がいる」</p> <p>20年後の自分の状態で最も近いと思うのは、「結婚して子どもがいる」の43.0%が最も多く、「わからない」30.7%、「独立してひとり暮らしをしている」18.4%などとなっている。男女別では、女子が「結婚して子どもがいる」56.1%と過半数であるのに対し、男子は「わからない」が36.8%が最も多く、「結婚して子どもがいる」が29.8%と女子の半分程度であり、好対照になっている。</p>

●中学生の乳幼児のふれあい体験

中学生になってからの乳幼児とのふれあい体験は、「ある」51.8%、「ない」47.4%となっている。男女別では、「ある」は女子が59.6%、男子は43.9%と過半数を下回る。

2 - (2) 子どもの生きる力の育成に向けた教育環境等の整備

●学校週5日制に対する不安

（小学生の親の意見）

- ・子どもがゆとり教育で、土・日がお休みになりましたが、日本企業の100%が週休2日制ではないので、子供が土・日に家でひとりで過ごすことが我が家では増えてしまいました。
- ・学校の週休二日制の導入で、子供達が学校から帰ってくるのが遅くなり、毎日の生活にゆとりがなくなった様に思われます。

（中学生の意見）

- ・文科省は完全週休2日制にして、ゆとり教育を目指しているが、少なくとも私の学校の生徒のほとんどは、休みが多くなって遊ぶ時間が増えたと言っている。ゆとり教育どころか、これでは生徒は、勉強に意欲を示さず、学力がおちてしまう。
- ・土曜日も、学校があるようにして下さい。

●外で体を動かして遊んでいる小学生は少ない

スポーツなど外で体を動かして遊んでいる時間は、「0.5～1時間以下」の34.2%が最も多く、次いで体を動かしている方では「1～2時間以下」24.6%、「0～0.5時間以下」21.7%、「2～3時間以下」4.5%などとなっており、「1時間～」で30.5%になる。全く体を動かしていない「0時間」は13.3%と少なくない。また、スポーツなど外で体を動かして遊んでいる人の1日平均1.30時間となっている。学年別では「1年生」が1.39時間で最も長く、「4年生」の1.17時間が最も短く、学年間格差は小さい。

●学校を選べるしくみがほしい

- ・学区制度があるために、一番近い学校へ通えない。学区制度はやめてほしい。
- ・普通と特殊教育のはざまに居る子どもが就学するとき、困難が出ている。広く学校を選ぶことができるシステムにしていきたい。
- ・狭い範囲にいくつもの小学校があるのだから、通学区をもっと弾力的にしてほしい。教員（小学校）の質・力量は良いと思う。

●その他学校に対する要望等

（小学生の親の意見）

- ・授業で追いつかない分を塾に通って、その塾通いの為に、地域での行事に参加できなくなったりしている。又、中学へ入っても、生徒数が少なかったり、指導者がいないという理由で、中学生活で一番大切な部活動が充実していない。
- ・学校の施設、環境の整備（少子化で、トイレやプール、空教室等のそうじは先生方や児童だけではまにあわなくなっている）。
- ・学習面だけでなく、しつけや子育て全般について学校でも相談できたり、または適切な相談先を紹介したり、指導したりを可能にしてほしい。

（中学生の意見）

- ・もっと、他校とふれあいをもち、休日の部活を増やしてほしい。
- ・さいたま市の公立高校を受験します。地元川越に共学の高レベルの高校が存在しないからです。

2 - (3) 家庭や地域の教育力の向上

● 大人への要望

（中学生の意見）

- ・大人にはもっと、子どものことを理解してほしいと思っている。
- ・家も学校もキライ。誰かに相談したって意味がないと思う。どうせ、世間体だけを親は気にするから本気で心配してくれる大人なんてどの世界にも存在しない。
- ・ルールを守らなかつたり周りの迷惑を考えない大人が多すぎます。

● 環境・自然保護について

（中学生の意見）

- ・川越の町が大好きですが近ごろ町にゴミが多くゴミ拾いを実施していただきたいなと思っています。
- ・路上でツバやたんを吐くのを取り締まる条例（制度）や、歩きタバコの禁止条例をつくってほしい。
- ・必要ない家を建てすぎだと思う。もっと自然豊かな市になってくれたらうれしい。

目標3：子育ての喜びを実感し、子どもとともに成長できる機会の充実

3 - (1) 親の学びの機会の充実

3 - (2) 親の社会参画の機会の充実

● 託児付のイベントのニーズ

親と子が一緒に聴ける講演会、親子で一緒に歌ったり踊ったりするイベント、子どもを見てくれる人がいて参加できる講演会など、母親と子どもと一緒に参加できる楽しい企画のニーズも寄せられており、こうしたイベントの充実と同時に、本市の各種イベントの一時保育を徹底していくことも考えられる。

目標4：仕事と子育ての両立を支援する施策の充実

4 - (1) 多様な働き方の実現及び男性を含めた働き方の見直し

●子育てについての考え方の傾向は分業思考。実際はほとんど母親が担う。

就学前児童の親は、「子育ては、母親と父親が協力し分担して行うのがよい」の62.4%が最も多く、次いで「子育ては母親が中心に行い、父親はできる範囲で協力すればよい」33.5%、「その他」3.3%、「子育ては、母親が中心に行い、父親は仕事に専念すればよい」0.1%となっている。

一方で、実際の子どもの世話は主に誰がしているかをみると、「母親」が80%以上を占めているものは「洗濯や部屋の掃除」(87.1%)、「食事や身の回りの世話」(85.8%)、「病気の時の世話」(81.7%)となっている。

小学校児童の親は、子育てに関する考え方は、「子育ては、母親と父親が協力し、分担して行うのがよい」の67.8%が最も多くて3分の2以上あり、次いで「子育ては、母親が中心に行い、父親はできる範囲で協力すればよい」23.4%となっている。

一方で、子どもの世話は主に誰がやっているかは、「母親」が「食事や身の回りの世話」87.2%、「洗濯や部屋の掃除」85.3%、「病気の時の世話」81.7%、「学校等の行事」も「母親」76.7%が多い。「子どものしつけ」は母親と父親の「両方で分担」48.4%が「母親」42.0%を上回っている。また、「子どもの勉強」は「母親」53.8%、「両方で分担」29.7%となっており、「子どものしつけ」と「子どもの勉強」以外は、ほとんど母親が分担しているのが現状である。

(意見)

- ・子育てを母親だけでなく、もう少し親に協力してもらいたい。特に父親の意識が重要です。
- ・日本では子育て＝母親という風潮がまだまだあり、それだけで母親は「自分が頑張らないといけないうい！」という大きなプレッシャーを感じます。

●父親が子育てに関わりづらい理由は「時間が取れない」が多い

就学前児童の父親は、父親が子育てに関わりづらい理由として、「残業や通勤時間が長く、時間がとれないこと」の68.8%が最も多く、次いで「子どもや家庭のことで休みをとることに職場の理解を得にくいこと」40.2%、「子育ては母親の役目という意識が男性にあること」27.8%、「父親として何をすべきかよくわからないこと」17.4%、「男性が子育てにかかわることを特別視する風潮が世間にあること」6.2%などとなっている。

また、小学校児童の父親では、一般的に、父親が子育てに関わりづらい理由は複数回答で、「残業や通勤時間が長く、時間が取れない」の65.0%が最も多く、次いで「子どもや家庭のことで休みをとることに、職場の理解を得にくい」33.2%、「子育ては母親の役目という意識が男性にある」28.8%、「父親として、具体的に何をすべきかよくわからないこと」16.8%、「男性が子育てに関わることを特別視する風潮が世間にあること」5.4%などとなっている。また、「その他」が5.0%と少なくないが、内容は分散しており、一部だが日本経済のサービス経済化を反映して「土日が出勤日であるため」というものもある。

4 - (2) 仕事と子育ての両立の推進

●男女共同での子育てを

- ・男女ともに、働きながら子どもを育てられる「共働き共育て」の環境の整備をお願いします。
- ・父親・母親の勤務時間を短くすること。勤務時間が長いから、延長保育というのは短絡的。人間らしく生きることを考えるべき。

●子育て家庭への職場の理解、残業の規制、休暇の取得

- ・父親がもっと子育てに関わるためには、仕事に費やす時間を減らし、家族と一緒に過ごす時間を増やすことが必要だと思います。
- ・問題は、父親が子どものことで休みをとることが職場で理解を得にくい、残業が多いことです。
- ・男女とも、せめて小学生以下の子どもがいる家の人は「残業なし」としてもらいたい。

●育児休暇を取りやすい職場

- ・父親に対し育児休暇は認められているが、実際には休暇は取れないのが現状、何とかならないか。
- ・出産のため退職すると、育児を終えても就職はできないと聞いています。また、育児休暇1年というのは短いように思います。
- ・託児所つきの会社が増えてくれるといいと思います。

目標5：子育てを地域で支える仕組づくりの推進

5 - (1) 地域における子育て支援サービスの充実

●緊急保育のニーズ

ニーズ調査では、緊急な用事や病気等で子どもの世話ができなかったことが「あった」人が約6割を占めており、緊急保育の充実を図る必要がある。

一方で家庭保育室へ本市が緊急委託した施設数は、H11年度の6か所をピークにH14年度は2か所に減少しているという事実もある。緊急保育が必要な人に情報が伝わっていないことが考えられる。

一時保育の実施状況はH11年度から4園から5園に増え、登録数はほぼ横ばいとなっている。
(意見)

- ・自分が休めないときに、子どもが熱をだしたりする。保育園や幼稚園の1室を病児保育室にするなど病児保育の充実を検討してほしい。

●ストレス、リフレッシュ保育のニーズ

「育児疲れをリフレッシュする必要がある」という人が約6割存在している。リフレッシュ保育についても充実を図る必要がある。

(意見)

- ・母親が一人だけで子どもをみることが多い家庭では、ストレスがたまってイライラを子どもにぶつけてしまう家庭も多いと思います。
- ・子育てに疲れて休みたいときに、1時間でも子どもから離れるとリフレッシュできます。
- ・すぐに子どもを預かってくれる場所があれば、母親もリフレッシュしやすいと思います。

●ファミリー・サポート・センターの充実を

ファミリー・サポート・センターの利用割合は全体で0.1%と非常に少ないが、今後利用したいサービスとしては、20.5%のニーズがあった。より身近にあり、急なニーズにこたえてほしいという声も寄せられている。一方で、預かり料金が安いという声もあった。

今後、サービスの周知を図ると同時に、地域単位のきめ細やかなニーズに応えることで、より利用者が増加することが考えられる。

●子育て相談の充実を

子育てに関する相談を必要とするニーズは高く、今後利用したいサービスの中で、就学前児童の親の場合「子どもの健康相談」35.4%、「教育相談」27.4%、「川越児童相談所」18.7%、小学生の親の場合「親の不安や悩みの相談」36.0%「子どもの健康相談」35.4%、「教育相談」27.4%「家庭児童相談室」20.9%など、相談に関するニーズが多く挙げられていた。また、相談できずに悩んでいる人が多いことから、十分な対策を考え、それぞれの保育所や幼稚園等に相談窓口を増やしたり、一軒一軒に相談員が訪問するなど、相談を受ける機会を広げる工夫を求める意見があった。

5 - (2) 保育サービスの充実

●保育所・幼稚園へのニーズ～20～30代の女性の市民ニーズでは、「保育所・幼稚園」が最も多い

平成15年の市民意識調査によると、「力を入れるべき市の施策」について性別・年代別のニーズを見ると、20代女性が31.1%、30代女性が30.8%で「保育所・幼稚園」を挙げており、どちらも一番高いニーズとなっている。また30代男性の19.6%にも「保育所・幼稚園/保健・医療」を挙げており、育児世代にとって保育所・幼稚園への施策の期待が高いことがうかがえる。

●保育所へのニーズ～保育所の定員の拡充

本市では、保育所の入所希望者が増加しており、待機児数も増加している。このため、早急に待機児童数を解消する必要がある。今回のニーズ調査の結果を踏まえて、今後の保育ニーズを予測し、保育所定員の充足を図る必要がある。特に、待機児童数は保育所によりまちまちであり、地域ごとの保育所定員を再検討し、定員の拡充を図る必要がある。

保育所は0歳から利用があり、4歳19.9%をピークに減少する。

就学前児童の入園したい保育施設の第1希望は、0歳から2歳まで6割以上ある。

●法人立保育所・認可外保育施設は保育料が高い

公立保育所の待機児童が多い一方で、法人立保育所や認可外保育施設の保育料の高さを不満とする声も少なくない。認可外保育施設に対する援助の充実を望む意見もある。

入園の条件が障害になっている

育児休暇中や仕事を探している人にとって、保育所へのニーズは高い一方、仕組が障害になっている次のようなケースもある。

・育児休暇が1歳までなので、生まれた月によっては4月には保育園に入園できず、定員枠があるので、途中の入園もできない。現在の入園基準8か月令以上を3・5か月令にしてもらいたい。

●家庭保育室の利用状況は横ばい状態

保護者の就労、傷病等により家庭での保育が困難となる生後8ヶ月から2歳（3歳未満）までの乳幼児の保育を行う、「家庭保育室」の利用割合は全体の1.4%で、委託児童数は3,000人前後で現在横ばい傾向である。

●幼稚園へのニーズ～4歳以上の利用ニーズが高い反面、利用料の高さが課題

幼稚園の利用は1～2歳から利用があり、3歳で20.5%、4歳からは6割以上に急増する。親の第1希望では、3歳から幼稚園に入れたいニーズが高く、実際は希望より1年遅れになっていることがわかる。その理由として、利用料が高いことを指摘する声も多い。

●幼稚園の預かり保育の拡充が必要

幼稚園は幼児教育の地域センターとして、就学前児童の学校としての役割を担ってきた。近年、少子化の中で、幼稚園で「預かり保育」が実施されているが、「幼稚園の閉園後の預かり保育をしてほしい」という意見は49.1%に達している。このため、子育て家庭の保育ニーズに対応して、幼稚園の預かり保育の拡充を促進する必要がある。閉園時間後の預かり以外のニーズとしては、夏休み等の長期休暇が46.5%、土曜日が27.1%、開園前が23%、休日が15.7%である。また、時間が短い、料金が高いという声もあり考慮が必要である。

●延長保育・土曜日休日保育のニーズ～延長保育の拡充が必要、また時間の延長も求められる

延長保育はH10年度の4園からH14年度には7園に増え登録児童数も増加しており、充実を図る必要があるサービスといえる。

（意見）

・延長保育はせめて朝7時から夜21時までやってほしい。

●土曜・休日保育～特に土曜のニーズが高い

土曜の保育サービスの利用ニーズは37.9%もある。そのうちほぼ毎週利用したい人は9.4%いる。利用時間は、開始時間は8～9時が多く、終了時間は15時と17～18時が多い。

休日の保育サービスの利用ニーズは土曜日よりは少なく、16%である。そのうちほぼ毎週利用したい人は2.2%いる。利用時間は、開始時間は8～9時が多く、終了時間は16・17・18時までが多い。
（意見）

- ・私はシフト勤務ですが、子どものために、特に、土日を休みにさせてもらっていますが、公立保育園で土日も預かっていただければと思います。
- ・サービス業や看護師など土日に関係なく働く人のために公立保育園は休日保育を実施してほしい。

●学童保育へのニーズ～学童保育室の入室児童数は増加している

学童保育室の利用状況は、平日の放課後、「利用していない」は91.4%、「利用している」は8.5%と数の上では少ないが、利用者（回答者128人）の中では、「利用時間の延長や休日の利用もできるとよい」（35.2%）という意見が寄せられている。

また、夏休み中の平日にもやってほしいという声もある。

なお、利用者の学年の傾向としては、1年生が22.7%と多く、2年生16.7%、3年生9.0%、4年生7.4%、5年生0.8%、6年生0.3%と高学年になると減少する。

学童保育室を利用している人の時間延長や休日利用の希望は、「今のままでよい」32.8%、「利用できるとよい」35.2%、「無回答」32.0%と3つに分かれている。

（意見）

- ・現在4年生までを6年生まで利用できたらと思う。5・6年生でも今の世の中、家に1人で残されるのは不安です。

5 - (3) 子どもの健全育成の取組

●子どもが遊びやすい公園が必要～地域ごとの公園の配置を考え、子どもが遊びやすい公園へ整備

就学前の子どもが遊ぶ場として、公園は大きな位置を占めている。しかし、「公園が近くにない」、あっても「人目につきにくく安心できない」、「遊具が少なく、子どもがすぐ飽きてしまう」、「水飲み場・手洗い場がない」、「夏の陽射しをさえぎるものがない」、「遊具はあっても幼児には危険」、「小学生が遊んでいて、ぶつかりそうで危ない」など、公園に対する意見も多い。さらに、「公園が暗い」、「見通しが悪い」、「誰も清掃していないらしく汚い」、「他の子どもが集まっていない」などの理由から、自分たちはほとんど利用していない公園もある。

このため、地域ごとの公園の配置、広さ、設備、遊具、安全（事故防止・防犯）などの面から総点検をし、地域の子ども・親・高齢者も含めて議論して、子どもたちが遊びやすい公園として整備していくことが必要になっている。

●市民意向調査に見られる公園へのニーズ

平成 15 年の市民意識調査では、「公園や広場などが多いうるおいのあるまち」にしたいという人が 23.8%で 2 番目に多く、平成 3 年からこのニーズはほぼ横ばいになっている。属性で見ると、年齢別では 20 代・30 代が最も多く、男女別では女性が多い、職業別では主婦が最も多く、子育て層からのニーズの高さと一致している。

●公園利用者の住み分けが課題

公園はあっても、幼児にとっては小学生以上が遊んでいることを危険と感じたり、中高生はスポーツができるような公園が少なく、高齢者のゲートボールと子どもの遊びが共存できていないなど、利用する層によって共存しにくいという意見も多い。

公園の利用のあり方については地域の様々な層が集まって協議しながら検討を進める必要がある。
(中学生の意見)

- ・近くにある公園はお年よりのゲートボール場になってしまうので、小さい子供を連れていくと、とてもいやがられます。
- ・今、公園では、サッカーや野球が禁止されているから、できるようになればいいなあと思います。
- ・たまに不良みたいな怖い人たちがいたりして使いたくても使えない時があります。これから市の方で公共施設をつくれる場合、クレアパークの様に少し規定が厳しいように思われますが警備をつけて頂ければ、安心して利用できるのうれしいです。

●児童館の整備、公民館の活用～児童館がほしいというニーズが非常に高い

本市では、児童館が2館設置されているが、各地の育児サークルからは、「もっと身近な地域に雨の時でも子どもを遊ばせられる場がほしい」という意見が多く出されている。子育て支援のサービスや施設の今後の利用希望において、「児童館」が49.6%と最も多かった。小学生の親も、子どもの健やかな成長のために必要なサービスは、「子どもを遊ばせる場所の提供」67.3%と最も多く、半数近くが児童館の利用を希望している。今後、児童館の増設を検討していくことが必要と思われる。

・雨の日に幼児が遊べる場所がない

雨の日には外で遊べないので、室内の遊び場が必要だ。室内の遊び場として利用可能なものは、児童館、公民館、その他の公共施設、自治会や町内会の会館、学校や幼稚園の空き教室などがあるが、幼児に開放されているものは少ない。

・今後の利用したい施設やサービス（就学前児童の保護者）

今後利用したいものは、図書館（92.5%）、乳幼児の健康診査（84.3%）、児童館（80.3%）、公民館（80.1%）などとなっている。

・地域に「児童館」が少ない

現在ある2館は、「子どもの城」（川越市児童センター）、「クラッセ」（川越市川越駅東口児童館）がある。「子どもの城」は「遠い」、「駐車場が狭い」などの理由で、行っていない人が多かった。クラッセの児童館は、「新しくきれいで、床は木製で、遊具もあり、また、図書室や幼児用のコーナーもあり、子どもを遊ばせるにはよい環境である」として、利用したことがある人がかなりあった。しかし、市の中心部に住んでいない人には、駐車場の確保や駐車料金の点では難点がある。そのため、クラッセのような児童館を各地域に作ってほしいという要望が多く出された。

●育児サークルは主に公民館を活用

現在、育児サークルは、主に公民館の部屋を借りて活動している。幼児が安全に遊ぶためには、公民館の部屋は、床が板張りか畳敷きのところがよい。

公民館は多くの団体が利用しているので、部屋を借りるのが大変な時もある。また、「雨の日には、公民館の空き室を子ども向けに開放してほしい」という声もあった。

公民館へは、子どもと一緒に徒歩（ベビーカー）、自転車、自動車などで来る。

今後こうしたニーズへの対応を考えていく必要がある。

公民館以外の施設への活用ニーズとして「公共施設の一部を子どもに開放してほしい。」「図書館で、親子で参加できるイベントの機会を増やしてほしい。」などの意見がある。

●子育て支援センターは乳幼児を安心して遊ばせることができる

就学前児童の保護者の子育て支援センターの認知度は41.4%だが、実際に利用したことがあるのはわずか5.8%である。今後利用したい人が48.9%と半数近く、地域ごとに増設することによって、今後の利用は高まる事が考えられる。

板張りなので危険がない、保育園の庭も利用できるので外遊びもできる、乳幼児の場合、4～5歳の子と一緒にだとぶつかったりして危険なこともあり、ここは安心である。公園は目を離していると子どもが道路へ出てしまう危険があるが、ここは保育園の中なので、そういう心配もない、乳幼児を他の子どもと一緒に遊ばせることもできるなどの声がある。

●小学生の施設の利用状況～公園の利用は8割以上

公園の利用の有無は、「時々利用する」が50.7%と最も多く、「よく利用する」32.4%を合わせた「利用する」で83.1%になる。「利用していない」は14.3%である。地区別では、最も「利用する」が多いのは「霞ヶ関北」の96.0%で、少ない「芳野」でも63.6%と6割を超えており、公園の利用率はいずれも高い。

●学校施設の利用は6割近い

学校施設の利用の有無は、「時々利用する」が38.2%と最も多く、「よく利用する」20.9%を合わせた「利用する」は59.1%になる。「利用していない」は36.7%である。地区別では、最も「利用する」が多いのは「山田」の66.0%で、少ない「芳野」は40.9%と4割程度に留まっているが、2番目に少ない「古谷」でも52.0%と半数を超えており学校施設の利用率はいずれも高く、かつ、地区間格差が小さい。また、「山田」は「よく利用する」も34.0%で最も多い。

●図書館の利用は3分の2

図書館の利用の有無は、「時々利用する」が50.6%と最も多く、「よく利用する」15.5%を合わせた「利用する」は66.1%になる。「利用していない」は31.0%である。地区別では、最も「利用する」が多いのは「霞ヶ関北」の93.9%で少ないのは「芳野」の45.5%と唯一半分以下で、次に少ない「福原」でも51.2%である。「霞ヶ関北」は「よく利用する」も30.3%で最も多い。

●公民館の利用は3割

公民館の利用の有無は、「利用していない」が65.1%と多く、「時々利用する」27.4%、「よく利用する」3.3%を合わせた「利用する」は30.7%になる。地区別では、もっとも「利用する」が多いのは「山田」の54.0%と唯一半数を超え、第2位の「福原」でも37.2%でしかない。ただし、「よく利用する」で最も多いのは「大東」の7.3%になる。一方、少ないのは「古谷」の24.0%で、「山田」とは2倍以上の開きがある。

●スポーツ施設の利用は4分の1

スポーツ施設の利用の有無は、「利用していない」が69.5%と多く、「時々利用する」20.0%、「よく利用する」5.3%を合わせた「利用する」は25.3%になる。地区別では、最も「利用する」が多い「山田」でも34.0%である。一方、「利用する」が最も少ない「高階」で20.0%と、地区間格差が小さい。

●児童館の利用は2割

児童館の利用の有無は、「利用していない」が76.1%と最も多く、「時々利用する」16.2%、「よく利用する」2.7%を合わせた「利用する」は18.9%になる。地区別では、もっとも「利用する」が多い「本庁」でも33.1%である。「よく利用する」でも「本庁」の4.9%になる。一方、「利用する」の少ないのは「芳野」で、4.5%でしかなく、「よく利用する」は0%である。

●中学生の施設の利用ニーズ～公共施設の利用、欲しい施設は「スポーツのできる場所」

中学生が利用している公共施設は、学校施設(47.4%)、図書館(29.8%)、スポーツ施設(26.3%)、公園(23.7%)などで、公民館(7.9%)、児童館(0.9%)は利用が少ない。

中学生が近くにあったらいいと思う施設は、「スポーツのできる場所」(58.8%)、「パソコンが自由に使える場所」(41.2%)、「友達とおしゃべりできる場所」(40.4%)、「読書や勉強ができる場所」(30.7%)などとなっている。

(意見)

- ・公共施設(図書館や公民館など)がもっと近くにあればよく利用したいです。
- ・図書館でも本を読む以外には使ってはだめという所がある。もっと勉強ができる空間がほしい。
- ・公民館等(ジョイフルetc...)の空き室は勉強の為開放して下さい。狭山市等近隣の市ではそうしている所があります。

●中学生の施設の利用状況～学校施設、「よく利用する」と「利用する」は半数近い

学校施設の利用の有無は、「利用しない」の29.8%が最も多く、次いで「よく利用する」25.4%、「利用する」21.9%、「あまり利用しない」21.9%となっており、「利用する」と「よく利用する」を合わせると47.3%になる。学年別では、「よく利用する」と「利用する」は、いずれも45~50%であり、格差は少ない。

●図書館、「よく利用する」と「利用する」は3割

図書館の利用の有無は、「あまり利用しない」の37.7%が最も多くて、次いで「利用しない」30.7%、「利用する」20.2%、「よく利用する」9.6%となっており、「利用しない」方が多いが、「利用する」と「よく利用する」を合わせれば29.8%と3割ほどになる。学年別では、「3年生」は「利用する」25.0%、「よく利用する」18.8%と多く、合わせれば43.8%となり、「無回答」3.1%を除けば半数近くなる。

●スポーツ施設、「よく利用する」と「利用する」は4分の1強

スポーツ施設の利用の有無は、「利用しない」の43.0%が最も多く、次いで「あまり利用しない」28.9%、「利用する」16.7%、「よく利用する」9.6%となっており、「利用する」と「よく利用する」を合わせると26.3%になる。学年別では、「利用する」と「よく利用する」を合わせると「1年生」34.1%、「2年生」23.7%、「3年生」18.8%と学年が上がるほど少なくなる。

●公園、「よく利用する」と「利用する」は4分の1近い

公園の利用の有無は、「あまり利用しない」の40.4%が最も多く、次いで「利用しない」35.1%、「利用する」18.4%、「よく利用する」5.3%となっており、「利用する」と「よく利用する」を合わせると23.7%になる。学年別では、「よく利用する」と「利用する」を合わせると「1年生」31.8%、「2年生」13.2%、「3年生」25.0%となり、「2年生」が少ない。

●公民館、「利用しない」が3分の2近い

公民館の利用の有無は、「利用しない」の65.8%が最も多く、次いで「あまり利用しない」24.6%、「利用する」4.4%、「よく利用する」3.5%となっており、「利用する」と「よく利用する」を合わせても7.9%に留まる。学年別でも各学年共に「利用しない」がほとんどである。

●児童館、「利用しない」がほとんど

児童館の利用の有無は、「利用しない」の85.1%が最も多く、次いで「あまり利用しない」11.4%であり、「よく利用する」と「利用する」は0.9%でしかない。学年別でも各学年共にほとんど「利用していない」である。

5 - (4) 体験活動・交流の促進

●小学生の地域参加の状況

・子供会、「参加」は半分以下から100%まで地域格差が大きい

子供会への参加の有無は、「参加している」が82.1%と高い参加率で、「参加していない」は14.2%でしかなく、全体的には子ども会活動は活発である。

地区別では、高い「芳野」は100%であるのに対し、低い「霞ヶ関北」は41.4%と半分以下ではない。ただし、半分以下は「霞ヶ関北」だけで、次に低い「名細」は69.1%と7割ほどの参加率になる。親の意見としては、「育成会の行事は大切であり、大事にしていく必要があると思います」「役員の方は大変でしょうが大人も子どもも近所の人と深くつき合える大切な機会だと思います。」「顔を知っているということが犯罪の防止などにもつながる。」「横ばかりでなく縦のつながりが子どもだけでなく大人も大切」などのように子ども会を積極的に評価している意見がある。

その一方で、「育成会の役員中心から子どもたち中心で計画、実施するような子供会になっていったら良い」のように運営方法の変更を求める意見や「育成会と呼ばれる子供会が多すぎ、役員（母親のみ）の負担が大きすぎて苦痛である。参加したくないが強制なので困る。」「集団活動もよいが今の時代、個人を大切にすることも考えてほしい。」「登校時の立哨など負担が大きく、市外への転出も考えている」「子供会の行事に参加しないのに、会費を払わなくてはならないのはおかしい」と否定的な意見も少なくなく、子供会への参加率は高いが、潜在的な脱会希望者もいる。

・ボーイスカウトやガールスカウト、「参加」は2%

ボーイスカウトやガールスカウトへの参加の有無は、「参加していない」が87.2%とほとんどで、「参加している」は2.1%しかない。

・スポーツクラブ、「参加」は3割弱

スポーツクラブには、「参加していない」が63.0%、「参加している」は28.6%である。

・その他の活動、「参加」は6%

その他の活動への参加の有無は、「参加していない」が21.3%で、「参加している」は5.7%しかない。「参加している」の具体的な内容は「合唱団」が10団体程あるのが目立つ程度で、他は分散しており、複数回答は「自治会」「お囃子」「YMCA」などである。

●中学生の地域参加の状況～ボランティア「経験あり」が57%

ボランティア活動の「経験あり」が57.0%で、内容は「環境美化に関する活動」が多い。また、地域の団体（自治会等）の行う行事へ「参加したことがある」は43.9%で、内容は「地域の祭り・盆踊り」、「ラジオ体操」などが多くなっている。

乳幼児とのふれあい「体験がある」は51.8%で、性別でみると、女子が59.6%と高く、男子は43.9%と低い。

ボランティア活動をしている回答数65の複数回答で、「環境美化に関する活動」の70.8%が最も多く、次いで「高齢者の福祉・介護に関する活動」16.9%、「障害者の福祉・介護に関する活動」9.2%となっている。男女別では、「環境美化に関する活動」が70.6%、71.0%と7割水準で同じだが、女子は「高齢者の福祉・介護に関する活動」19.4%、「障害者の福祉・介護に関する活動」と「町づくりに関する活動」16.9%も相対的に多い。

●中学生の地域の団体が行う行事への参加は「ある」が4割強

自治体等の地域の団体が行う行事への参加の有無は、「参加したことがない」51.8%、「参加したことがある」43.9%となっている。男女別では、「参加したことがある」は男子36.8%、女子50.9%となっており、女子は過半数が「参加したことがある」である。

地域の団体の行事に参加した回答数50の複数回答で、「地域の祭り・盆踊り」の72.0%が最も多く、次いで「ラジオ体操」40.0%、「スポーツ大会や教室」26.0%、「自治会の運動会」18.0%などとなっている。また、「その他」14.0%も多いが、その内容は「ゴミ・資源回収」である。

男女別では、男子が「ラジオ体操」の66.7%が最も多く、「地域の祭り・盆踊り」は57.1%に留まっているのに対し、女子は「地域の祭り・盆踊り」の82.8%が圧倒的に多く、「ラジオ体操」は20.7%である。

5 - (5) 地域における子育て支援のネットワークづくり

●育児サークルへの支援は、子育て情報のすそ野を広げる

本市には、幼児をもつ親たちが、親同士の交流や子どもの遊び仲間づくりを目的とした自主的な育児サークルが数多く存在している。

サークルの傾向としては、子どもの年齢は、就園前の幼児を対象としたものが多く、主に公民館を拠点として活動しているサークルが約50団体ある。

多くの参加者は「相談できる人が身近にいない」、「相談場所がわからない」という人が多く、地域では得られない情報をサークルのコミュニティを通して得ている傾向がある。育児サークルを支援することにより、結果としては子育て情報提供を効果的に広げる手段ともなり、十分な連携・支援体制が必要である。

支援イメージとしては、育児サークルに対する情報提供、サークル活動の紹介、PRの場の提供、プレイ・リーダーの派遣、サークル同士の交流、高齢者や子育て経験者との交流促進、見学料の減免などが挙げられる。

また、育児サークルは、子育て講座や健診を契機に子育てグループがはじまるケースが多く、こうした場への子育て情報提供は効果的であることがうかがえる。

（意見）

- ・手遊び、手作り工作、集団ゲームなど様々な遊びを指導できる人（プレイ・リーダー）を紹介してほしい。
- ・毎日子どもの世話という女性には、気軽に遊びにいける場所で、同年代の子どもをもつ親とも交流できる場があれば、ストレスの発散になるので、育児サークルの情報を提供してほしい。
- ・同じ年頃の子どもが集まれる継続的な講座やスクールを数多く開設してほしい。

●隣近所に子どもが少ない・隣近所とのつきあいは少ない ～地域社会で子育て支援を

保育園や幼稚園に行っている子どもが多いため、平日の昼間に隣近所で幼児をあまり見かけないという意見があった。公園に行ったり、子育てサークルに参加しないと、同年代の子どもと遊ぶ機会がない状況である。

また、昔の地域コミュニティのように、隣近所のおばさんに子どもを短い時間だけ見てもらって、買物や用事をたすようなことはあまりないという意見があった。

一方で、「社宅では、子育てが終わった人が声をかけてくれることもある。」「育児サークルで知りあった人同士が近所に住んでいるのなら、お互いに助け合うこともできると思う。」という声もあり、地域での支え合いを望む意見も寄せられている。

（意見）

- ・育児についても、地域の人に相談したり、助けてくれる人がいたり、親がいたらなくとも周りの人が補って、子どもが育っていったと思います。
- ・昔のように、近所づきあいを積極的に行えるように、一人ひとりが地域社会の大切さを感じることができると望みます。
- ・近所にいらっしゃる子育てを終えた高齢者の方や先輩方と、気軽にふれあい、地域みんなで子どもたちや親を手助けできる関係があればいいと思う。
- ・地域の人の力を信じて、もっと協力を呼びかけるなど、たくさんの大人がいろいろな形で関わる中で子どもたちが育っていくシステムをつくっていききたい。
- ・自治会に「未就園児の会」というのがあり、病気やお医者さんの情報など、子どもに関わるさまざまな情報が自然な形で手に入れられます。

5 - (6) 子育て情報提供の充実

●子育て情報は口コミが中心～効果的な情報提供方法の検討が必要

子育ての情報提供を求める意見も多数あった。ニーズ調査の結果を見ると、情報が十分に伝わっていないために利用率が上がらないサービスもあると考えられる。

子育て情報は友人からの紹介（口コミ）で得ることがもっとも多いが、一方で、他市からの転入者が多いため、口コミ情報を得にくい転入者への効果的な情報提供を検討する必要がある。その他では、「公民館の掲示板」「公民館からの紹介」「市の広報紙」「雑誌、インターネット」から情報を得ている。特に、育児中でなかなか出歩けない人からは、ホームページに情報を載せてほしいという意見も多い。

欲しい情報としては、「児童館の催しもの、公園の場所と設備、健康診断、保育園や幼稚園の情報など、相談の窓口、出産に関する情報、設備やサービスを利用する人が必要としている情報をできるだけ詳細に提供してほしい。子どもたちを連れて行って見学できる施設の情報もほしい。」などの意見が寄せられている。

目標6：要支援児童へのきめ細かな取組の推進

6 - (1) 児童虐待防止対策の充実

●児童虐待防止対策の充実、児童虐待防止ネットワークづくり

ニーズ調査では、「子育てが嫌になったり、かっとなることがある」に対して、「そう思う」（就学前児童の保護者 22.3%、小学生児童の保護者 9.3%）となっており、また「子育てをしている中で、日ごろ悩んでいることや気になること」では、「子どもが自分の言うことをきかない」の19.8%（小学生児童の親）が最も多い。その他、子育てに自信がないと思っている親が4割、子育てで嫌になったりかっとなることがあるが半分近く、子どもがかわいくないと思う親が15%（いずれも小学生の親）という結果となっている。

以上の様に、児童虐待へつながっていく心理状態に陥る危険性が存在している。

現在、全国的に児童虐待が増加しており、虐待防止対策の充実が急務となっている。本市においても、家庭、地域社会、関連団体の連携・協力を強め、児童虐待防止のネットワークを充実していく必要がある。

6 - (2) ひとり親家庭等の自立支援の推進

●ひとり親家庭等への支援の充実

ニーズ調査結果では、母子家庭の相談件数は増加傾向にある。特に公的援助についての相談数が多く、次いで、生活の相談、子どもについての相談、住宅についての相談、職業相談となっている。

「朝食を毎朝食べる」子どもの割合は「ひとり親家庭」では「両親と子ども家庭」より低く、「子どもだけで夕食をとることがほとんどない」と回答した人の割合は「ひとり親家庭」では「両親と子ども家庭」よりかなり低い。

こうした点から考えると、ひとり親家庭への地域社会や行政からの支援を充実する必要があると思われる。

・母子家庭で2人で暮らしていますが、収入額だけで審査され、児童扶養手当の額が減っていき、生活が苦しくなってきました。そのような現状が改善されることはないのでしょうか。

6 - (3) 障害児施策の充実

●障害者に対する意識など

ひかり児童園（心身障害児母子通園施設）の登録児童数は、平成10年133人、平成14年170人と増加しており、障害児の子育てに対しても、地域社会からの支援、行政からの支援の充実が必要になっていると思われる。

（意見）

- ・まだまだ障害に対する理解が薄く、特に軽度の子どもたちにとっては居場所のない状態です。普通の子もこのような子どもたちも差別なく同じように生活できるようになることを望みます。
- ・普通と特殊教育のはざまにいる子どもが就学するときに、困難が出ている。広く学校を選ぶことができるシステムにしていただきたい。

目標7：子ども等にやさしく、安全・安心なまちづくりの推進

7 - (1) 良質な住宅・良好な居住環境の確保

●これから子育てしたい人へも優遇がほしい

・もっと子どもを生みたいのですが、経済的に家が狭く十分な部屋が取れないことが理由で、子どもを断念しています。

●公共施設や商業施設で、子連れに配慮した設備やサービスを

川越駅の周辺の商業施設や公共施設に、乳児のオシメを交換できる場所をトイレ近くに設置してほしい。また、乳児に授乳ができる場所を公共施設や商業施設内に設置してほしいという意見が多く寄せられている。

- ・街中にオムツを替える所や母乳をあげられる所が増えれば、親子で街を歩くことができます。
- ・店舗にもオムツを交換できる場を作ってほしい。
- ・育児サービスのある美容院、映画館、レストランなどがあるとよい。

7 - (2) 安全な道路交通環境の整備

●安全な道づくりを

親が日頃心配していることとして、「道路が狭く、交通量も多いので、交通事故にあわないか心配している」が就学前児童の親で62.3%と最も多く、小学生の親も59.7%と多い。小学生の親の調査を見ると地区別の格差が大きく、多い「本庁」71.1%や「山田」70.0%に対し、少ない「芳野」は18.2%しかない。

「市内は道路が狭く、交通量も多く、歩道がない道も多い。子どもや子連れの親が交通事故にあわないように、道路の改良を進めてほしい」などの意見が寄せられており、十分な対策が必要となっている。

また、「子どもが交通事故や犯罪にあわないように安全確保のために必要と思うことは」という小学生の親への質問では、複数回答で、「街路灯や防犯灯の設置」の74.2%が最も多く、次いで「通学路など道路の整備」57.3%、「信号機やガードレール等の設置」51.4%と、ハード整備へのニーズが多くなっており、十分な対策が必要となっている。

地区別では、「通学路など道路の整備」は最多の「福原」70.5%と最少の「霞ヶ関北」36.4%、同様に「信号機やガードレール等の設置」は「芳野」72.7%と「古谷」42.0%と格差が比較的大きい。ただし、必ずしもこの回答は日頃感じている「交通事故にあわないか心配」の地区別の回答とは一致しない。

なお、平成15年の市民意識調査によると、「子供が外で遊ぶときの安全性」についての満足度がすべての地区においてマイナス評価となっており、大東地区の-0.73、本庁地区の-0.63、福原地区の-0.62が特に低い評価となっている

（意見）

- ・子どもの通学路に歩道がなかったりするので、通学路の改良をお願いしたい。
- ・車が多くて道を歩いてて恐ろしい気がします。
- ・昨年からの信号設置をお願いしてきたけれど、順番待ちやお金がかかると、路面標識のみにとどまっています。子どもの命とお金とどちらが大切なのでしょう。どの通学路にもガードレールはつけるべきだし、何よりも早く対処したい。

●道路・駅等の公共施設のバリアフリー化を

子ども連れが自由に安心して歩ける道路や駅が少なくという意見が出されており、公共交通機関、公共施設にエレベータやエスカレータ、スロープを設置するなどのバリアフリー化が求められている。

（就学前児童の親の意見）

- ・ベビーカーで移動する場合、階段を利用するのは大変なので、鉄道の駅にはエレベータやエスカレータなどの設備を設置してほしい。
- ・市内の道路は狭いだけでなく、歩道がない道路も多い。また、歩道があっても、自転車が置いてあったり、歩道の表面がでこぼこで、ベビーカーや車いすで移動するには危険な場所がある。こうした道路について、歩道の整備を進めてほしい。

（中学生の意見）

- ・道路をもっと自転車の走りやすい平らな道にして下さい。
- ・日曜日は中央通りを歩行者専用にする。川越駅、本川越駅から北に延びる道路をもっと大きく広くしてほしい。
- ・蔵造りがある町に車を通さないで、路面電車をとおして、観光客が来やすい町づくりにしたほうがよい。
- ・芳野方面に駅をつくって下さい。毎日駅（川越駅）まで自転車で35分は遠いです。

7 - (3) 安全・安心なまちづくり

●防犯体制の充実を

親が日頃心配していることとして、「暗い道路などが多く、子どもが犯罪の被害に遭わないか心配している」が、小学生の親では66.0%が最も多く、就学前児童の親も57.0%と過半数を超える結果となっている。また、「子どもが交通事故や犯罪に遭わないように安全確保のために必要と思うことは」という小学生の親への質問では、複数回答で、「街路灯や防犯灯の設置」の74.2%が最も多く、次いで「通学路など道路の整備」57.3%と、ハード整備へのニーズが多くなっており、十分な対策が必要となっている。

（意見）

- ・最近、子どもに関する犯罪や不審者が現れたことなどをよく聞きます。子どもを安心して外に出せなくなっています。
- ・子どもたちが安全に戸外で遊べるように、川越市全体として治安の悪化を食い止めるような行政を期待したい。
- ・小室に住んでいます。西郵便局の裏の田んぼ道付近に「防犯灯」を設置していただきたいです。夜道が真っ暗で非常に怖い思いをします。小室保育園あたりまでです。

●防犯への配慮、夕焼けチャイム

- ・近年、不審者が出没したという情報もかなりあり、子どもをお使いに出す時も心配している。PTAや地域の人たちでパトロールをしたらどうか。現在、夕方6時（夏）に全地域でチャイムがなるように設定しているが、夕方のチャイムが鳴る時間が遅い、30分くらい前に予鈴を鳴らしてほしい。

●スクールバス等の通園・通学環境の整備を

- ・福原地区は校区が広く、自宅から学校まで子どもの足で1時間近くかかります。毎朝7時に自宅を出るのは小学生にはかなりの負担です。又、畑や森林が多いので、変質者の問題が毎年あります。できれば、スクールバスの様なものがあればいいのと思っています。

7 - (4) 子ども等の交通安全を確保するための活動の推進

●子どもの安全確保のために必要なことは

ソフトな取組のニーズとしては、「集団での登下校の実施」54.2%、の上位4位までは過半数を超え、以下、「子どもへの防犯教育の強化」40.3%、「防犯ベルの携帯」37.0%などとなっている。

7 - (5) 子ども等を犯罪等の被害から守るための活動の推進

7 - (6) 被害に遭った子どもの支援の推進

●防犯体制の充実を

親が日頃心配していることとして、「暗い道路などが多く、子どもが犯罪の被害に遭わないか心配している」が、小学生の親では66.0%が最も多く、就学前児童の親も57.0%と過半数を超える結果となっている。また、防犯に対して寄せられた意見も多く、十分な対策が必要となっている。

（意見）

- ・最近、子どもに関する犯罪や不審者が現れたことなどをよく聞きます。子どもを安心して外に出せなくなっています。
- ・地域が一体となって、子どもを守り育てる意識が事故や犯罪を未然に防ぐ。パトロールなどを増やしてほしい。
- ・子どもの防犯対策については、都内で子どもに関する事件をメールで送信するサービスを始めると聞きましたが、これは働いている父母にとってはとてもよい試みだと思っています。
- ・学校、家庭だけでなく地域ぐるみで、子どもを見守っていくことが大切だと思います。夕方、暗くなってきたら、子どもに、大人が声をかけるなどの運動を行えば、子どもに対しての犯罪も少なくなると思います。

8 平成16年度公立保育所アンケート結果

調査名 保育サービスに関するアンケート結果

実施期間 平成16年7月

実施対象 公立保育所20園にて実施

回収率 60.9%

1 平日の延長保育について		
(1) 開園時間について	計	率(%)
午前6時以前	7	0.8
午前6時30分	30	3.4
午前7時	212	24.1
午前7時30分	380	43.2
午前8時	160	18.2
午前8時30分	91	10.3
(2) 閉園時間について		
午後6時30分以前	341	38.9
午後7時	286	32.6
午後7時30分	123	14.0
午後8時	101	11.5
午後9時	19	2.2
午後10時以降	7	0.8
2 土曜保育について		
希望しない	318	36.3
月1~2回	317	36.1
月3~4回	242	27.6
3 休日保育について		
希望しない	560	65.0
月1~2回	241	28.0
月3~4回	60	7.0
4 産休明け保育について		
希望する	552	65.0
希望しない	297	35.0
5 病後児保育について		
希望する	656	76.5
希望しない	202	23.5

アンケート 提出数/配布数 = 892/1464